

第30回 関東地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 令和4年2月15日(火) 16:00～18:00
2. 場 所 (オンライン開催)
3. 出席委員 宮村委員長、清水委員長代理、池田委員、池谷委員、石井委員、伊藤委員、小笠原委員、久保委員、鈴木委員、玉井委員
4. 議 事 二瀬ダム、荒川調節池総合開発施設、北千葉導水路、霞ヶ浦開発事業、利根川河口堰の定期報告
5. 主な意見
 - (1) 二瀬ダムの定期報告
 - (委 員) 「渇水対応タイムライン」について、気候変動の影響や危機的渇水への備えという観点から策定されていることを資料に加えるべき。(荒川調節池総合開発施設、北千葉導水路も同様)
 - (委 員) 堆砂対策について、更なる効果的な対策の検討が必要ではないか。
 - (委 員) 土砂動態の実態を把握する上で、ダム上流の土砂生産域の調査を行うことも重要であり、関係機関と情報共有することも有効である。
 - (委 員) 貯水池の堆砂が放流濁度へ与える影響を監視することも必要ではないか。
 - (委 員) これまで実施してきた地すべり対策工事の効果として、モニタリングでは異常値は観測されておらず安定していることを報告しておくべき。
 - (2) 荒川調節池総合開発施設の定期報告
 - (委 員) 浄化施設の機能や効果について確認していく必要がある。
 - (委 員) ビオトープでは貴重な品種が見つかっており、保全のあり方に

ついて検討することも重要である。

(委員) 周辺地域動態において、コロナ禍でイベントによる利用者が減少する一方、日常的な利用は影響が少ないのでは。今後はイベント中心で地域の活性化を図るより、いかに日常的に使っていただくかが重要である。(北千葉導水路も同様)

(3) 北千葉導水路の定期報告

(委員) 導水路管の腐食発生原因として、通水時間や水質の視点からも検討してはいかがか。

(4) 霞ヶ浦開発の定期報告

(委員) 妙岐ノ鼻は関東でも重要な野鳥の生息地である。コヨシキリなど確認数の減少に着目して調査を継続する必要がある。

(委員) カンムリカイツブリは北浦が日本の最南端の繁殖地と考えられている。安定した繁殖ができるような環境をつくってほしい。

(5) 利根川河口堰の定期報告

意見等無し